

(理) 科における令和7年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- 1学年では、ICTを活用し、実験が難しい事象、観察が難しい事物などについて体験的な学習をし、主体的に学ぶ意欲や思考・判断・表現の力の伸長につなげた。
- 2学年では、知識・技能について、スモールステップを活用した授業によって育成を図った。

単元ごとの内容などで学習したことが定着していない部分がある。実験・観察を通した活動や意見交換を通して、思考力は身に着きつつある。

- 3学年では、思考・判断・表現について、授業の振り返り記述などを通して、思考力の定着と向上を図った。

<課題>

- 2学年で、単元の学習内容が定着していない部分があるので、実験・観察を通した活動や意見交換を通して、思考力は身に付けていく。
- 3学年で、前年度の内容の定着が不十分なので、タブレットを活用した家庭学習などで復習し、知識・技能の定着を図っていく。

(理) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○1学年：教科の正答率は目標値に対し、6.7ポイント下回った。特に領域では物質・エネルギー分野で目標値に対し7.6ポイント下回り、基礎・活用では活用で7.5ポイント下回っている。 ○2学年：教科の正答率は目標値に対し5.1ポイント下回った。観点別にみると知識技能が5.2ポイント下回っており、知識・技能に課題が見られる。 ○3学年：教科の正答率は目標値に対し、6.8ポイント下回った。内容別では化学変化と物質の質量、及び電流の性質において区の平均を上回った。特に2年生の内容で学力の向上が見られる。
観点別結果の分析	○1学年：知識・技能では7.8ポイント下回り、思考・判断・表現では、4.8ポイント下回っている。 ○2学年：すべての観点で目標値を下回っている。目標値に対して特に正答率が低い領域は生命であり、14.0ポイント下回っている。 ○3学年：知識、技能において3.9ポイント差がある。思考・判断・表現において2.9ポイントの差である。知識を補うことで改善が期待できる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1学年：基礎となる知識・技能の定着を徹底しつつ、活用力や応用力を伸ばしていく必要があると考えられる。
- 2学年：単元ごとの基礎固めを通した知識・技能の習得、思考・判断・表現を伸ばすための活用力や応用力の伸長。
- 3学年：基本的な知識・技能の定着を、ドリルパーク等を活用して習慣的に行い、授業進度外の単元の知識の定着をはかる。

(理) 科の授業改善策

- 1学年：スモールステップで小テストなどの機会を多く作りながら、学習習慣の確立をはかる。実験や観察を通して、予想や結果の考察をタブレットも用いながら共有、ディスカッションする機会を多く持ち、活用力などの科学的思考を養う。
- 2学年：デジタル教材も活用しつつ、学習習慣の確立や課題への取り組みを促し、知

識・技能を習得できるようにする。実験・観察を通した活動から、結果について考え、様々な意見に触れる機会を増やすことで、科学的思考力を伸ばす。

○3 学年：基本的な知識・技能の不足が見られるので、学習量、演習量の確保をはかる。